

XEAD Driver

PostgreSQL への DB 移行方法

Windows 7 Professional SP1

Document 下山吉洋
2013/10/07

目次

第1章	まえがき	3
第2章	設定方法の概要	4
1.	移行の手順 (概要)	4
2.	文字コードの指定	4
3.	RDBMS システム別接続情報	4
4.	POSTGRESQL データベースの作成	5
(1)	テーブル情報	5
5.	EXECUTE QUERY での接続設定	6
(1)	<i>Drivers</i> 情報の設定 (<i>Derby</i>)	6
(2)	<i>Connections</i> 情報の設定 (<i>Derby</i>)	6
(3)	<i>Drivers</i> 情報の設定 (<i>PostgreSQL</i>)	7
(4)	<i>Connections</i> 情報の設定 (<i>PostgreSQL</i>)	7
6.	エクスポート・ファイルの作成	8
(1)	<i>C:\Program Files\Xead\Driver\StartDatabase.bat</i> の修正	8
(2)	<i>DB</i> の開始	10
(3)	<i>MfgDscrt</i> (<i>Derby</i>) への接続	10
(4)	正常に接続できたら <i>Tools</i> メニューの「 <i>Export Data</i> 」 → 「 <i>Export as SQL</i> 」を起動	11
(5)	ダイアログに次のように設定する。	11
(6)	出力されたファイルの内容	14
7.	POSTGRESQL への移行	15
(1)	新規データベースの作成	15
(2)	<i>XEAD Editor</i> で <i>MfgDscrt.xeaf</i> を開き、修正してください。	15
(3)	<i>PostgreSQL</i> 、 <i>MfgDscrt</i> データベースでエクスポートした <i>MfgDscrt.sql</i> を実行して初期レコードを作成します。	19
(4)	<i>XEAD Driver</i> を起動する。	21
(5)	<i>XEAD Driver</i> 起動画面	22
第3章	付録	23
(1)	「 <i>CONCEPTWARE</i> ／販売管理」	23
(2)	「 <i>Skeleton</i> 」	23

第 1 章 まえがき

XEAD Driver に「CONCEPTWARE／生産管理」がリリースされました。
XEAD Driver 標準のデータベースは ApacheDerby ですが、PostgreSQL にも対応しています。
データベースを移行する手順・資料を記載しています。

本資料は、XEAD Driver 利用の便宜を図るために下山吉洋が作成しました。
参考にいただければ幸いです。

XEAD Driver は渡辺幸三氏が、開発中のオープンソースプロダクトです。
この資料の内容に対する、渡辺氏への直接の問い合わせはご遠慮ください。

第2章 設定方法の概要

動作環境

OS: Windows 7 Professional SP1 (32Bit 版)

JAVA: Java SE Development Kit 7

32Bit 版で確認 (jdk-7u40-windows-i586.exe)

<http://download.oracle.com/otn-pub/java/jdk/7u40-b43/jdk-7u40-windows-i586.exe>

※Java SE Development Kit 7 をインストールすると JavaDB (ApacheDerby) が同時にインストールされるので、このパッケージのインストールでの設定を説明します。

移行に使用したバージョン

XEAD Driver 2013.09.28 版

CONCEPTWARE / 生産管理 更新日: 2013/10/04

PostgreSQL 9.3.0

移行に利用したツール

Execute Query v4.1.0 Build 5326 (29 July 2013)

<http://www.executequery.org/>

TeraPad v1.09 (12/11/12) <http://www5f.biglobe.ne.jp/~t-susumu/>

1. 移行の手順 (概要)

- ① Java SE Development Kit 7 をインストールしてください。
- ② XEAD Driver をインストールしてください。
- ③ JavaDB (ApacheDerby) のインストール先を参照して、
"C:\Program Files\Xead\Driver\StartDatabase.bat" の内容を修正してください。
- ④ スタートメニューから「XEAD Driver」→「DB の開始」を起動。
- ⑤ 「CONCEPTWARE / 生産管理」を任意のフォルダに配置してください。
- ⑥ 「MfgDscrt.xeaf」を開くと、XEAD Editor が起動します。
JavaDB (ApacheDerby) に接続され、テーブルが閲覧できます。
- ⑦ PostgreSQL に「MfgDscrt」データベースを新規に作成します。
- ⑧ XEAD Editor でデータベース設定を PostgreSQL に接続します。
ファイルを保存して、開き直します。同期が取れていないので「赤い×」が表示されます。
- ⑨ XEAD Editor メニューの「ツール」→「モジュールの一括作成」を起動します。
PostgreSQL に合わせた DDL 文が自動発行され、テーブルが生成されます。
- ⑩ 同期しきれないテーブルに「赤い×」が残りますが、個別にモジュールの同期をかけることでインデックスが追加され、完全に同期します。
- ⑪ JavaDB (ApacheDerby) のレコードの内容を SQL インサート文として、エクスポートし
PostgreSQL で実行し、インポートを行います。
(CONCEPTWARE / 生産管理 更新日: 2013/10/04 の MfgDscrt.sql を提供。)
- ⑫ XEAD Editor で「F5」を押し、XEAD Driver が起動し、正常に動作するか確認します。

2. 文字コードの指定

エクスポートするインサート文、漢字を含むテキストファイルの文字コードは UTF-8N で作成してください。

3. RDBMS システム別接続情報

XEAD Editor のシステム定義、データベースタブ、データベース設定

データベース設定へ接続先の RDBMS に合わせた文字列設定を行ってください。

jdbc:postgresql://localhost:5432/ MfgDscrt

ユーザ: postgres、パスワード: hoge hoge

jdbc:derby://localhost/<CURRENT>¥db

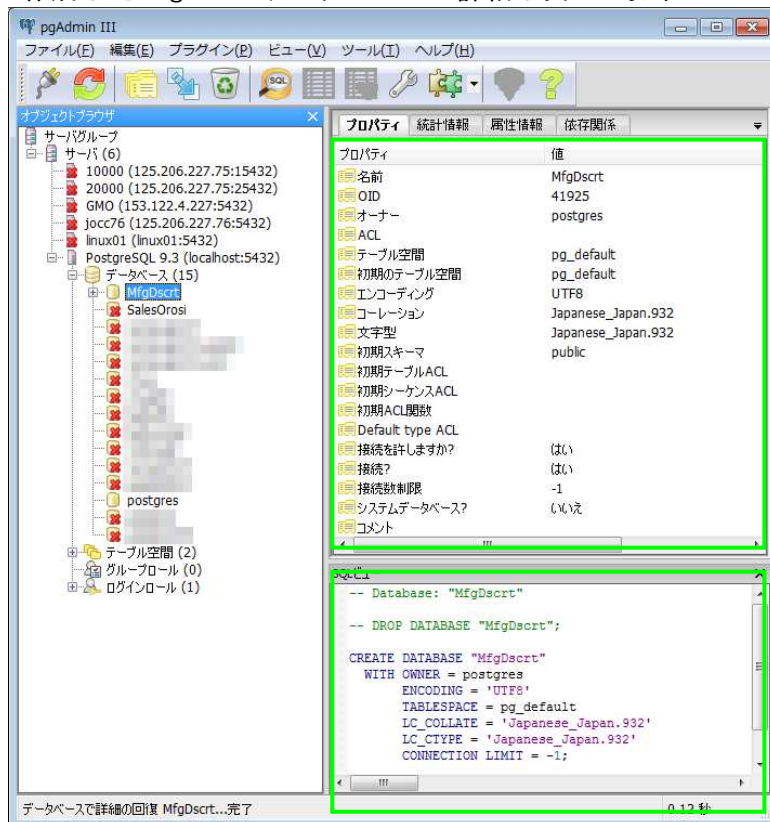
ユーザ: XEAD、パスワード: XEAD

4. PostgreSQL データベースの作成

(1) テーブル情報

1. データベースの詳細

作成した MfgDscrt データベースの詳細は次のとおり



プロパティ、SQL ビューをご確認ください。

PostgreSQL インストール、データベース作成手順は省略します。

Windows 版デフォルトインストールです。

接続に際しては、postgresql.conf、pg_hba.conf の設定をご確認ください。

お役立ちツール

pgAdmin III



PostgreSQL の Windows 版をインストールするとデフォルトでスタートメニューに登録されます。

Execute Query <http://executequery.org/index.jsp>



インストールも簡単、JAR をダブルクリックするだけで、インストーラ起動

【ハウツー】これは便利! MySQL/PostgreSQL にも対応 - RDBMS 操作ツール"Execute Query"

<http://news.mynavi.jp/articles/2006/09/22/executequery/index.html>

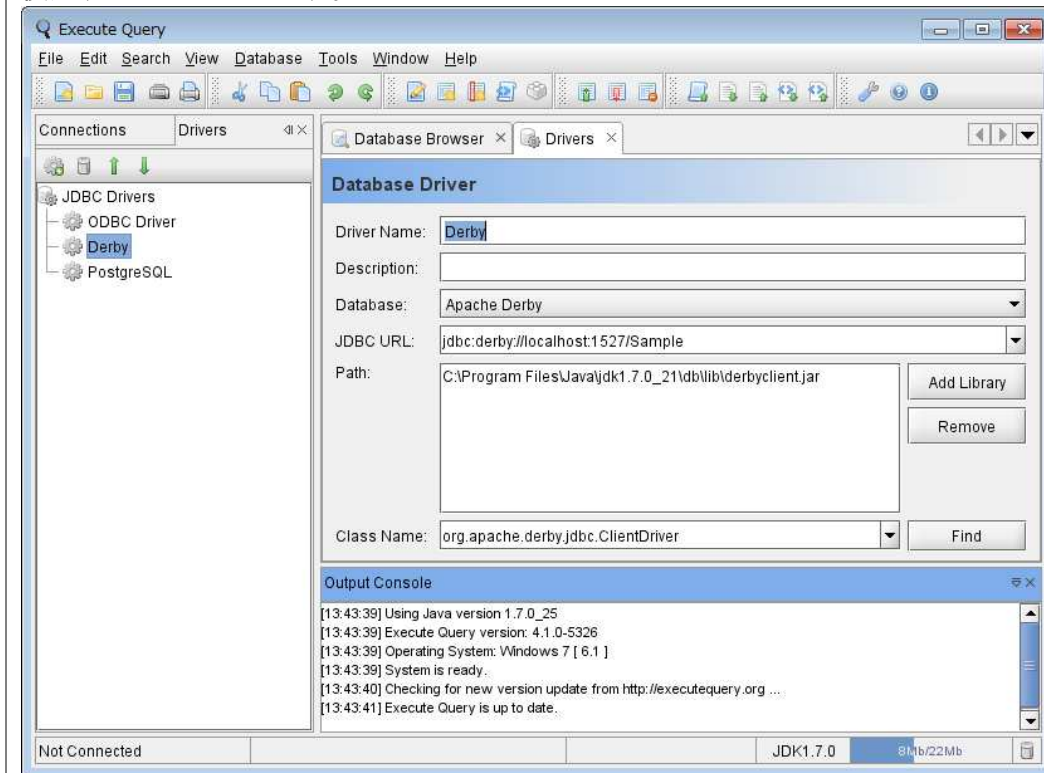
接続には各 RDBMS 用の JDBC ドライバが必要です

5. Execute Query での接続設定

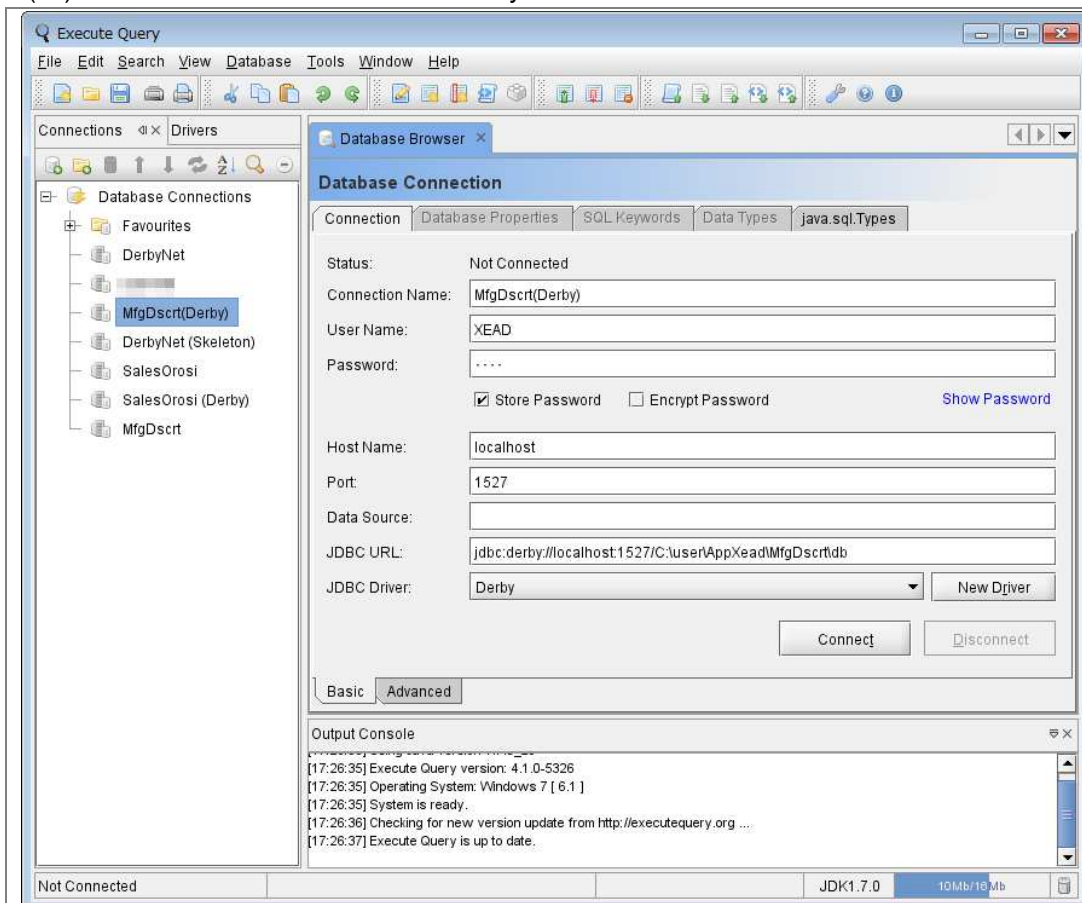
(1) Drivers 情報の設定 (Derby)

Derby 用の JDBC ドライバが、JDK 内に用意されています。インストール環境に合わせ Path を指定してください。

XEAD Driver と共にインストールされる、「C:\Program Files\Xead\Driver\derbyclient.jar」を使用することもできます。



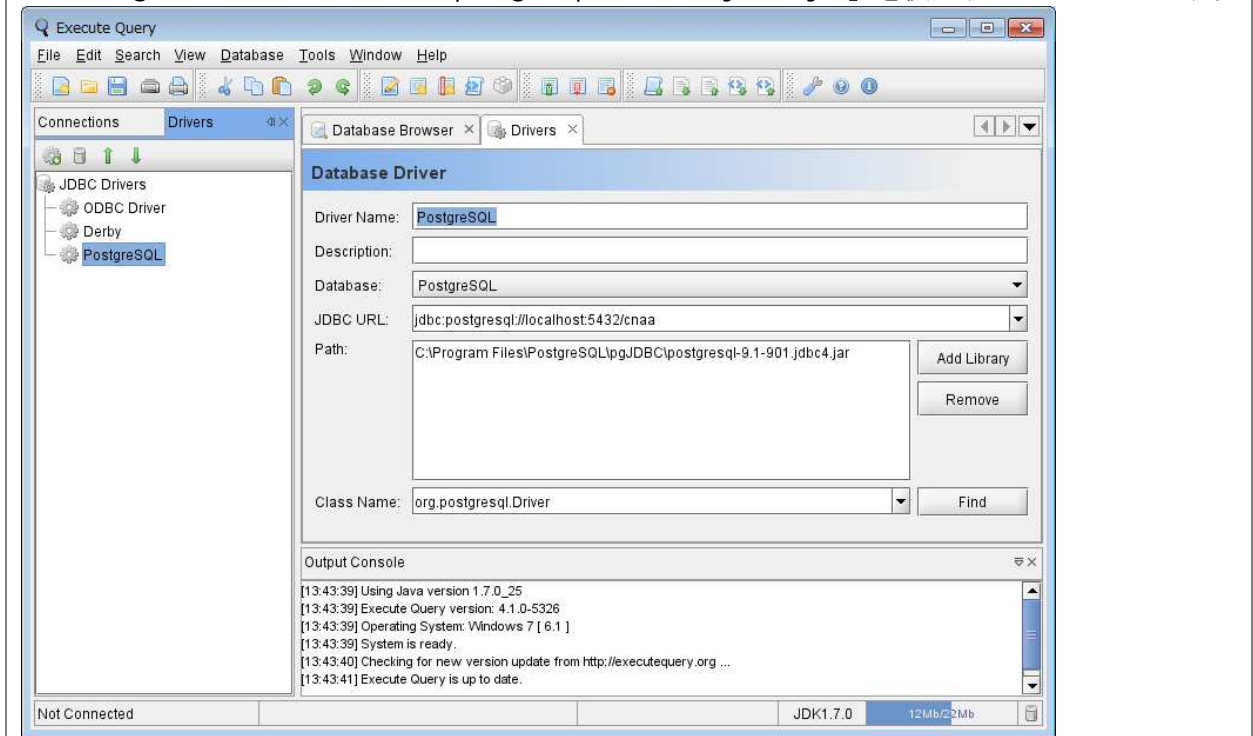
(2) Connections 情報の設定 (Derby)



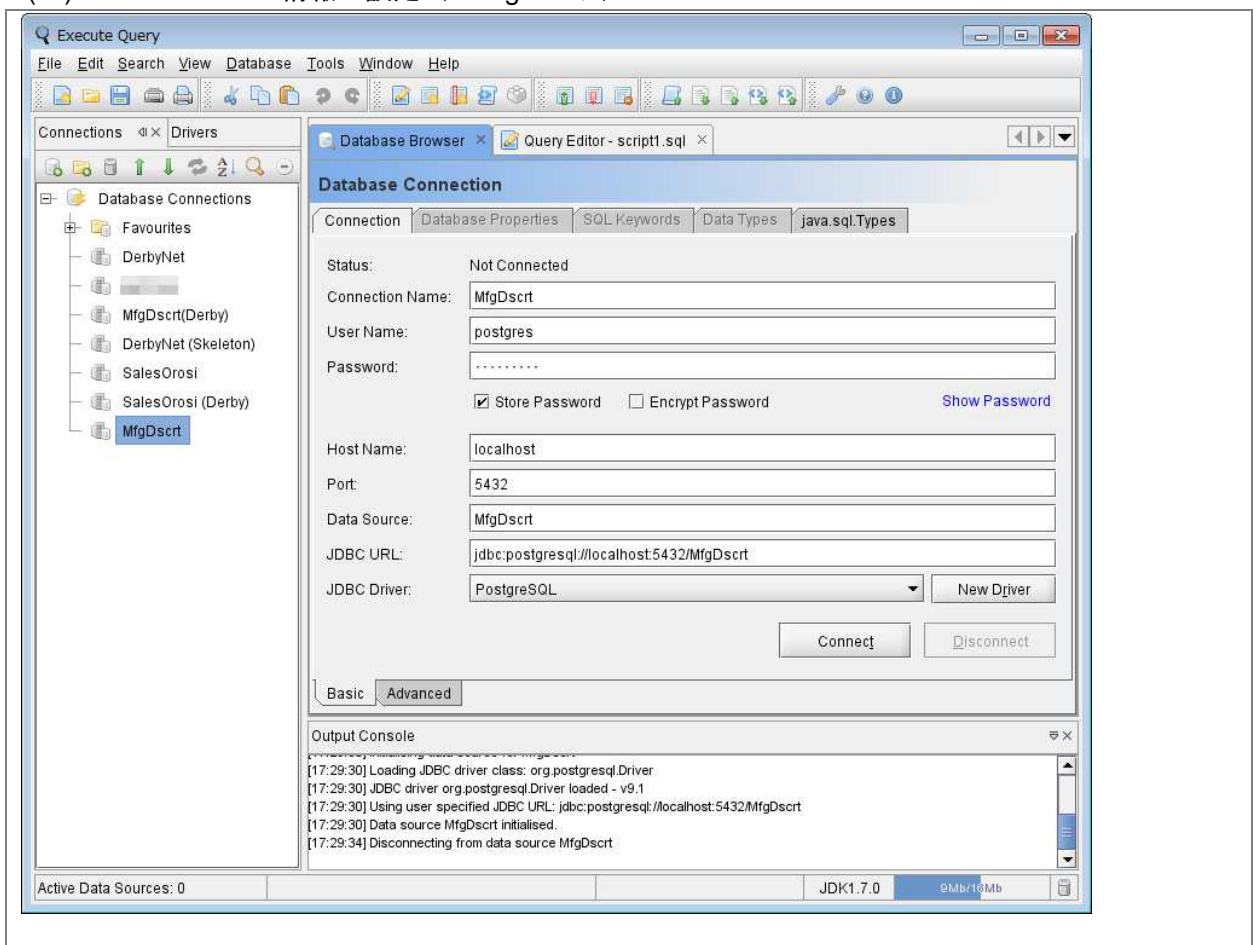
(3) Drivers 情報の設定 (PostgreSQL)

PostgreSQL 用の JDBC ドライバを指定してください。

「C:\Program Files\Xead\Driver\postgresql-9.1-901.jdbc3.jar」を使用することもできます。



(4) Connections 情報の設定 (PostgreSQL)



6. エクスポート・ファイルの作成

(1) C:\Program Files\Xead\Driver\StartDatabase.bat の修正

XEAD Driver の起動メニューから「DB の開始」に失敗する場合は、JavaDB (ApacheDerby) へのパスの修正が必要です。インストールディレクトリに合わせ変更します。



JavaDB (ApacheDerby) を個別にインストールした場合は修正する必要はありません。

C:\Program Files\Xead\Driver\StartDatabase.bat の内容を次のように修正してください。変更には管理者権限が必要です。

```
@echo off
rem path="C:\Program Files\Sun\JavaDB\bin";%PATH%
path="C:\Program Files\Java\jdk1.7.0_21\db\bin";%PATH%
start startNetworkServer.bat
```

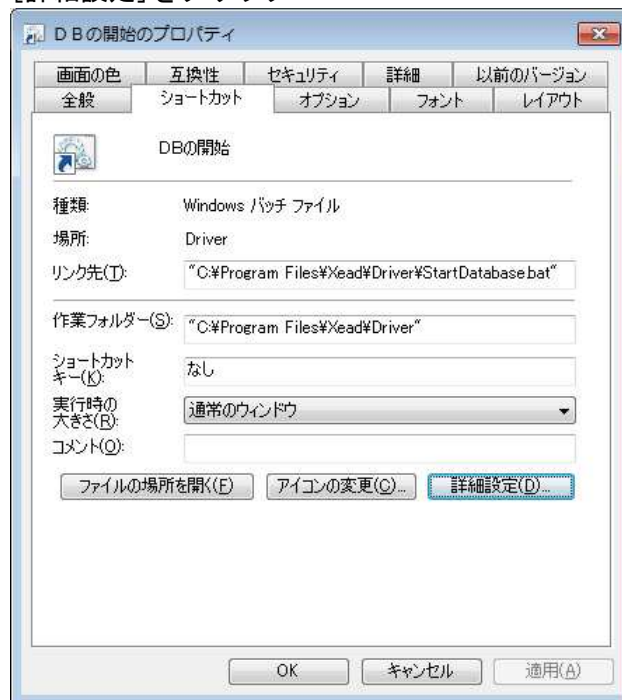
C:\Program Files\Xead\Driver\StartDatabase.bat のプロパティを変更し、管理者権限を付与します。

スタートメニュー → XEAD Driver → DB の開始 を右クリック

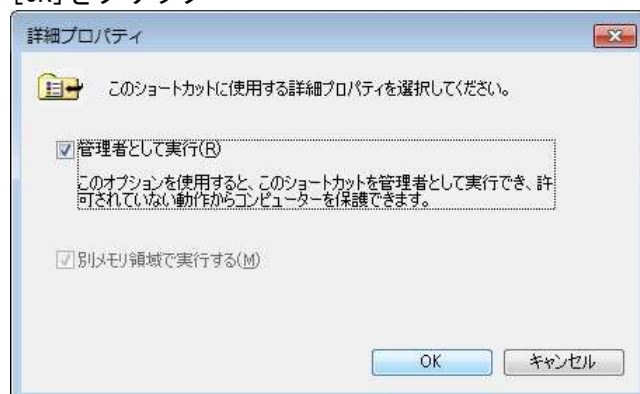
[プロパティを選択]



[詳細設定]をクリック



管理者として実行にチェックを入れる。
[OK]をクリック



```
start startNetworkServer.bat
```

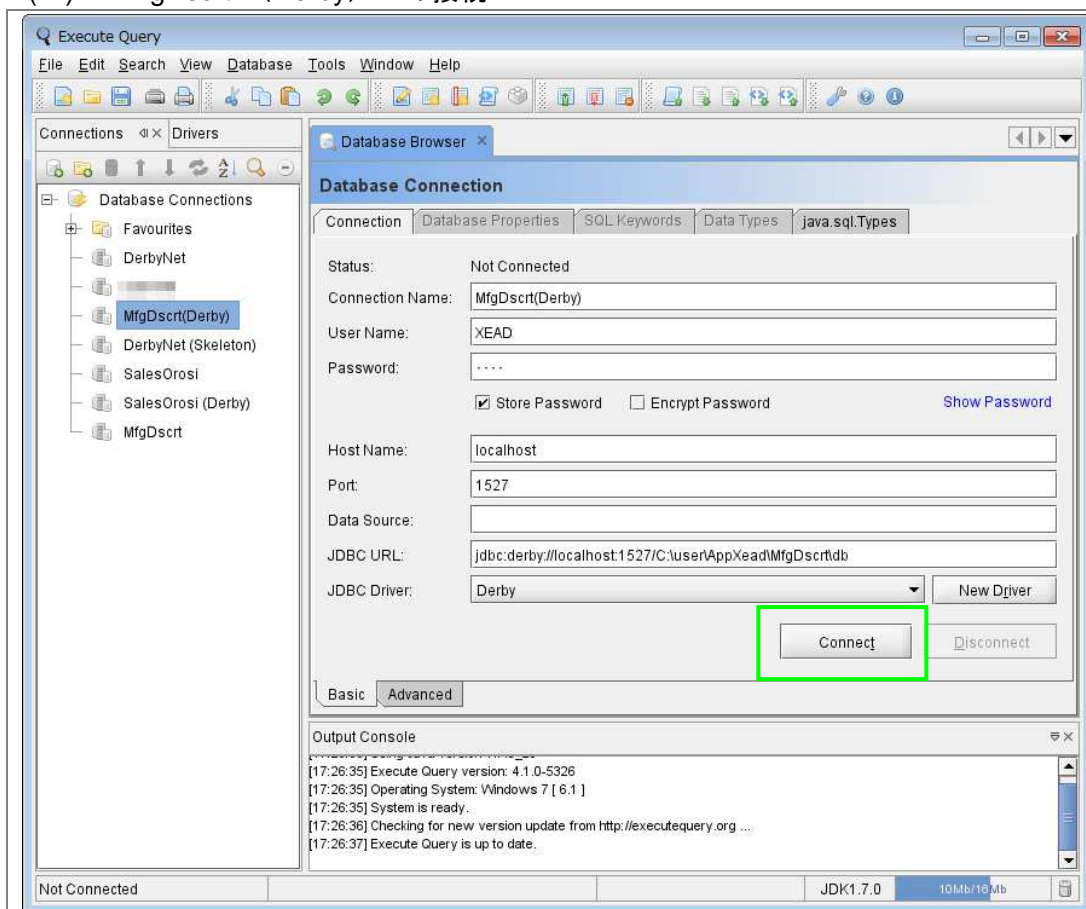
(2) DB の開始

スタートメニューから、DB の開始を起動すると
 UAC メッセージ
 変更を許可しますかとダイアログが出ます。
 はいを選択して、起動してください。
 次のようなコマンドプロンプトが起動します。

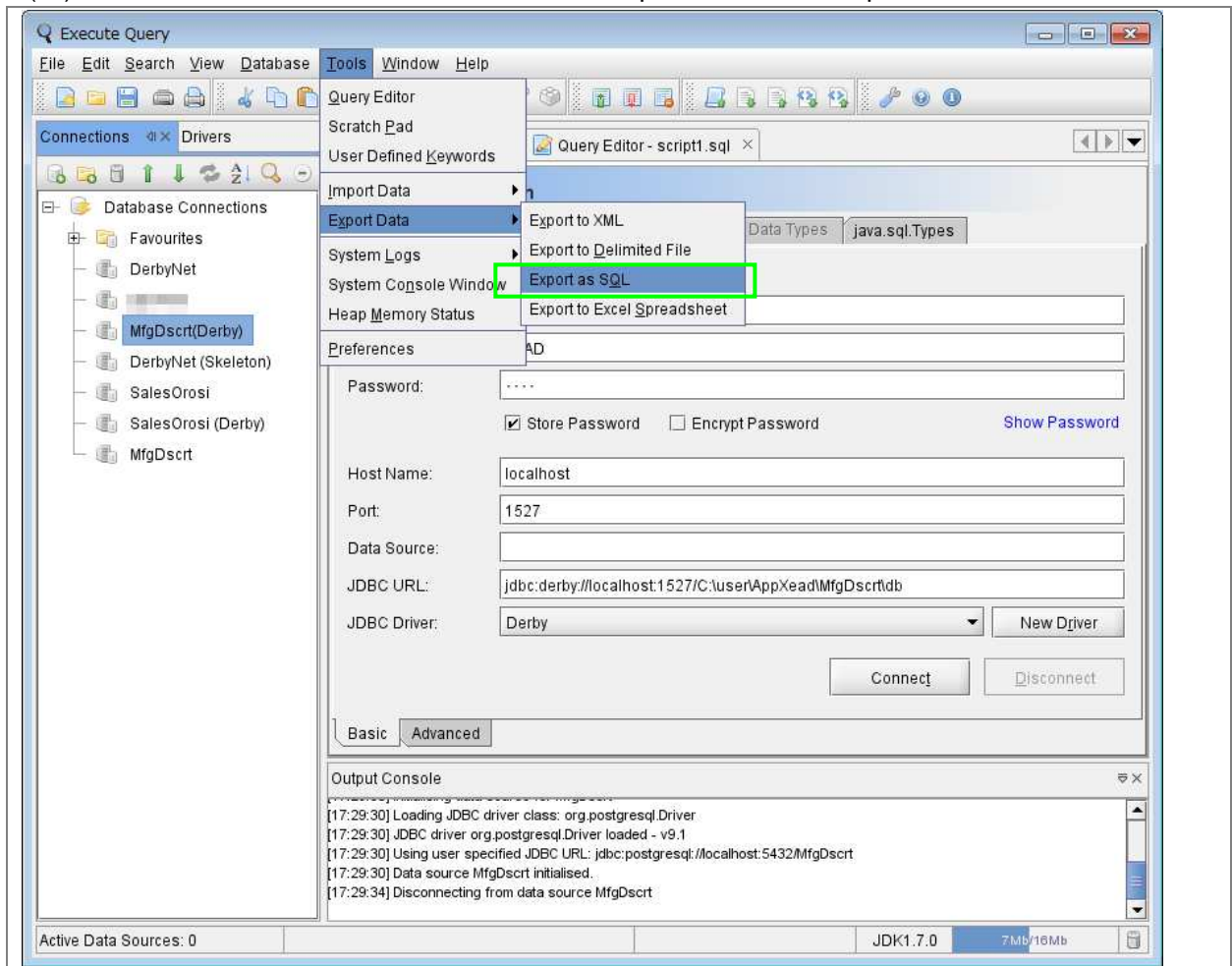
```

C:\Windows\system32\cmd.exe - startNetworkServer.bat
Tue Oct 29 17:18:34 JST 2013 : セキュリティマネージャーが Basic サーバーセキュリティポリシーを使用してインストールされました。
Tue Oct 29 17:18:35 JST 2013 : Apache Derby Network Server - 10.8.2.2 - (1181258) が起動し、ポート 1527 で接続の受け入れ準備が完了しました
  
```

(3) MfgDscrt (Derby) への接続

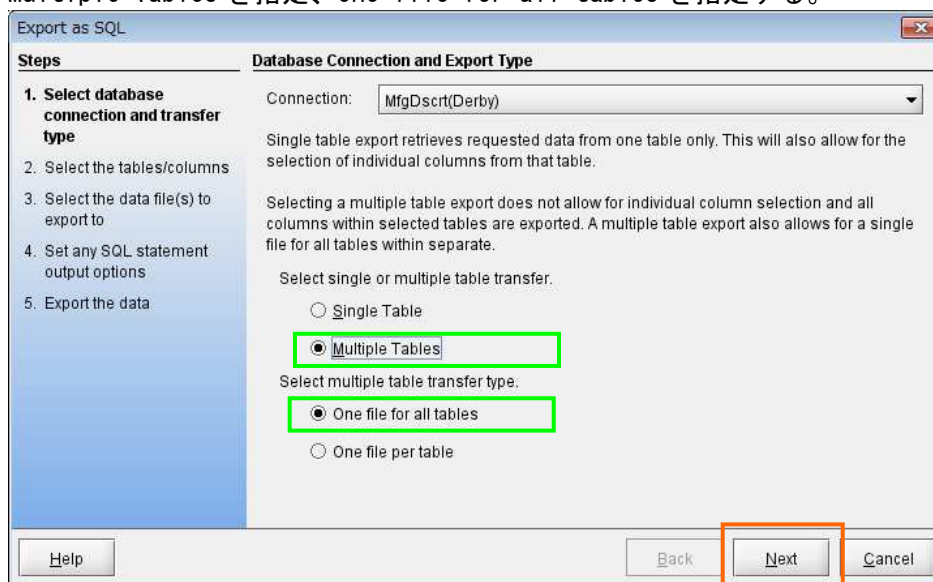


(4) 正常に接続できたら Tools メニューの「Export Data」→「Export as SQL」を起動

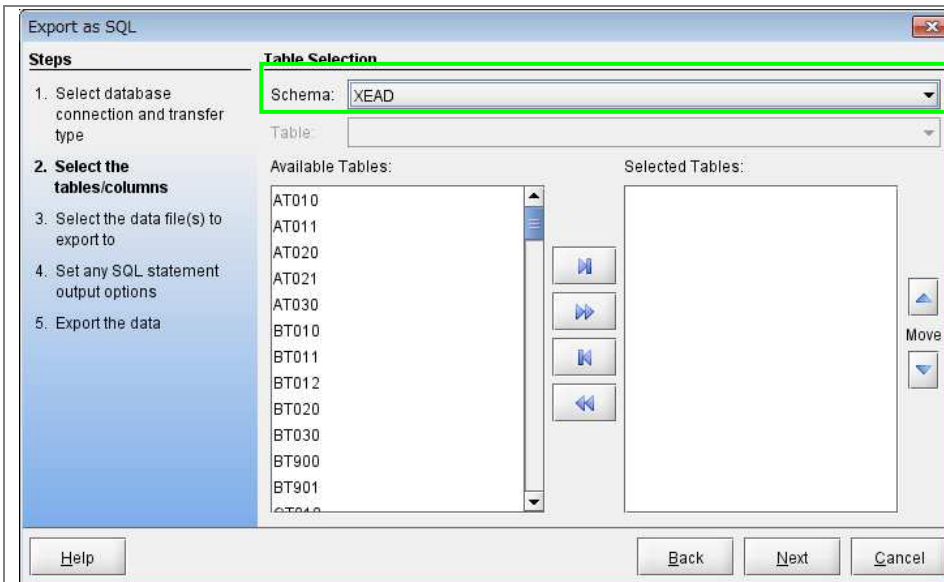


(5) ダイアログに次のように設定する。

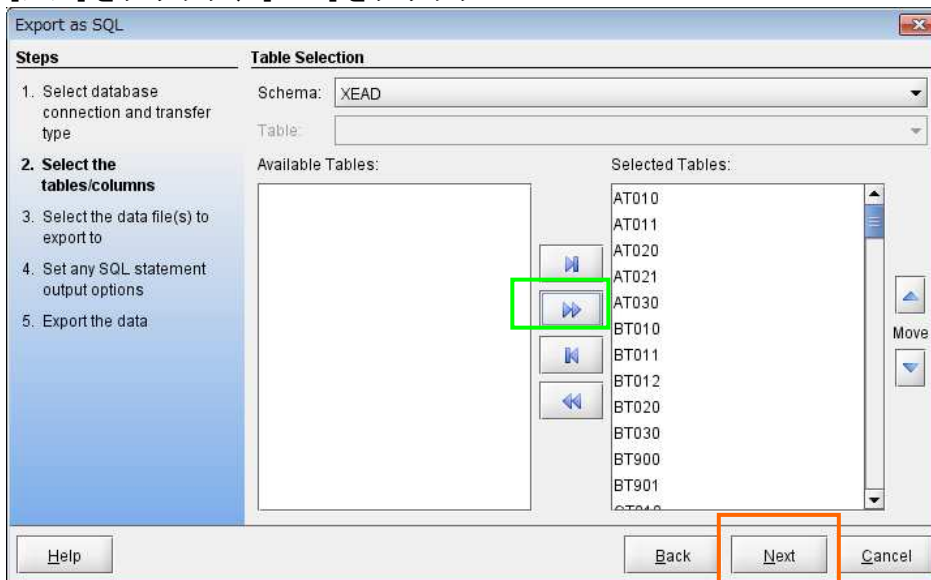
Multiple Tables を指定、One file for all tables を指定する。



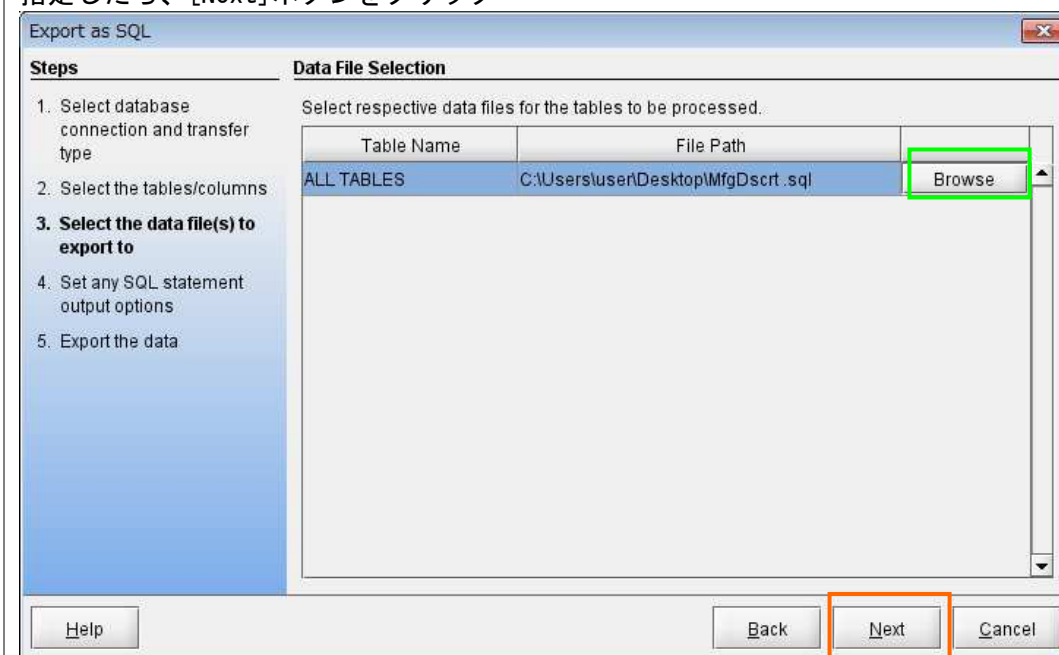
Schema に XEAD を選択する。



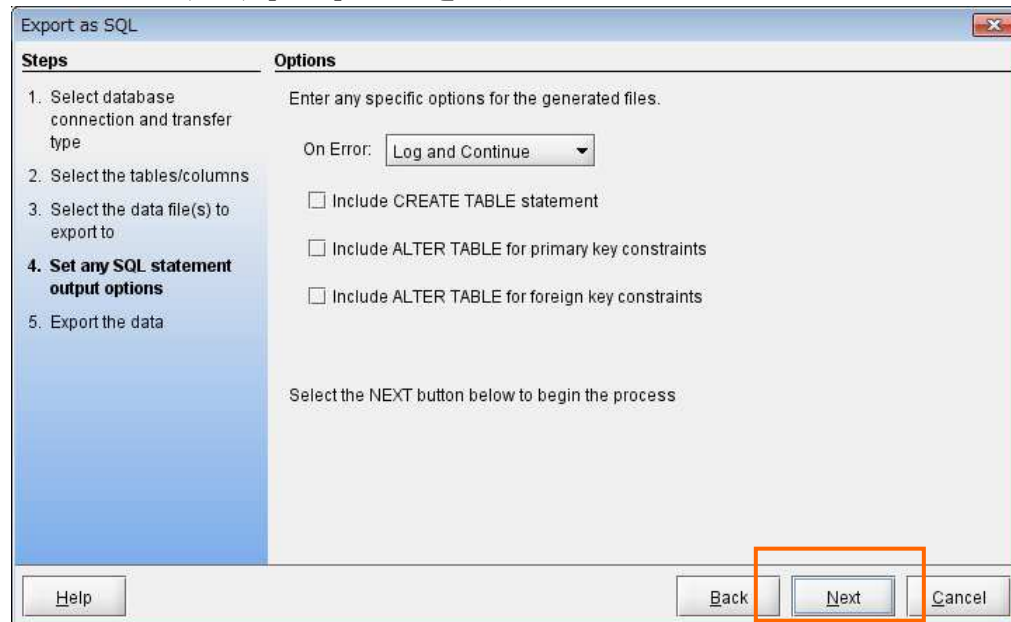
[>>]をクリック、[Next]をクリック



[Browse]ボタンをクリックして、出力先のパス、ファイル名を任意に指定してください。
指定したら、[Next]ボタンをクリック



チェック入れずに、[Next] ボタンをクリック

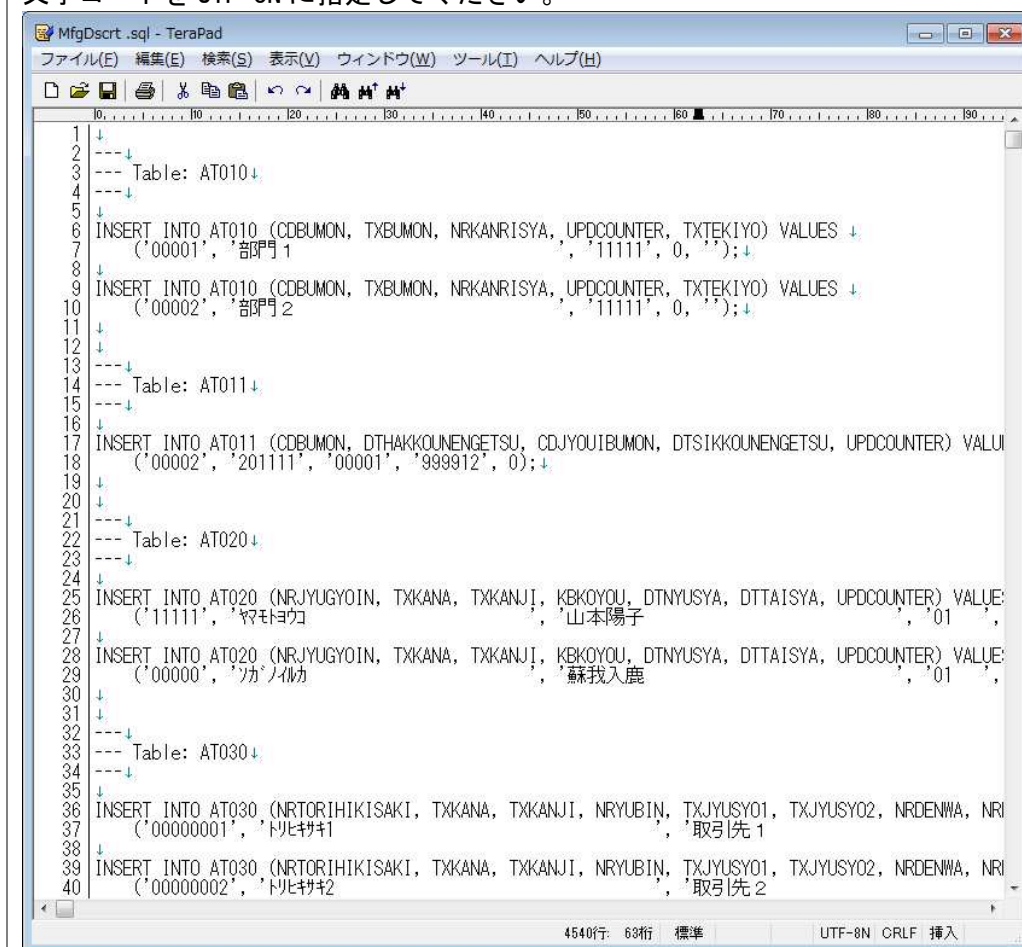


エクスポート、完了。
指定したら、[Finish]ボタンをクリック



(6) 出力されたファイルの内容

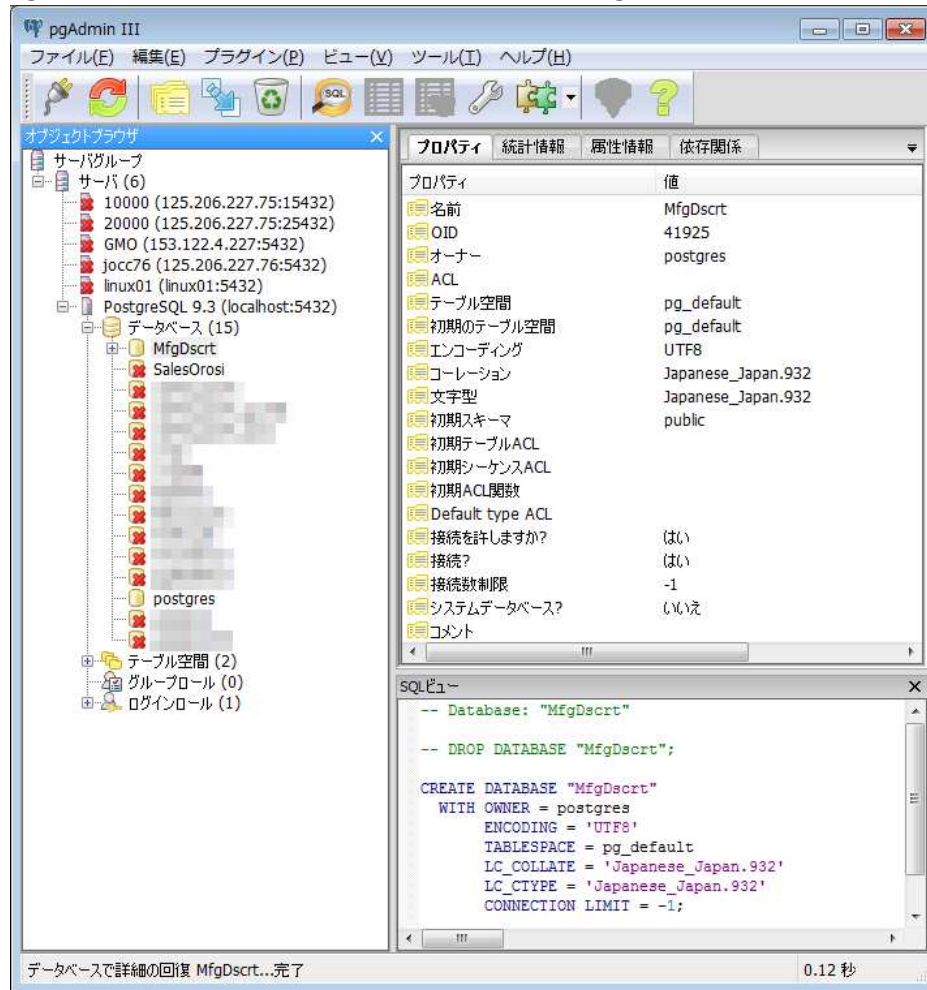
文字コードを UTF-8N に指定してください。



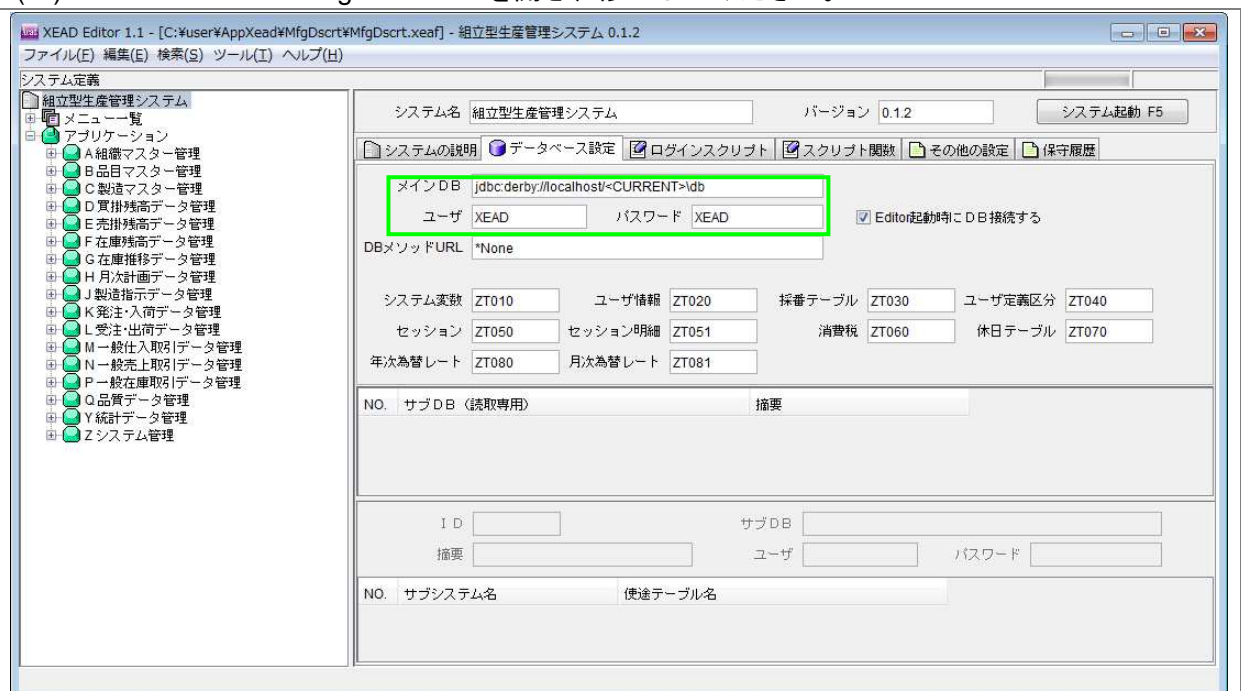
7. PostgreSQL への移行

(1) 新規データベースの作成

PgAdminIII を使用して、新しいデータベース MfgDscrt を作成してください。

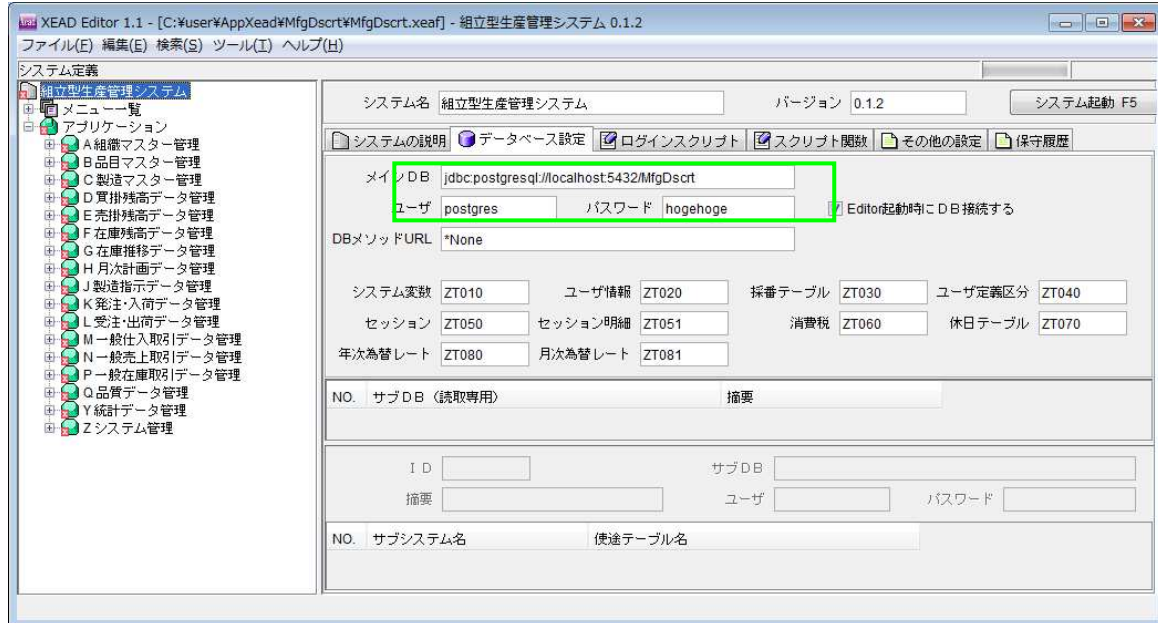


(2) XEAD Editor で MfgDscrt.xeaf を開き、修正してください。

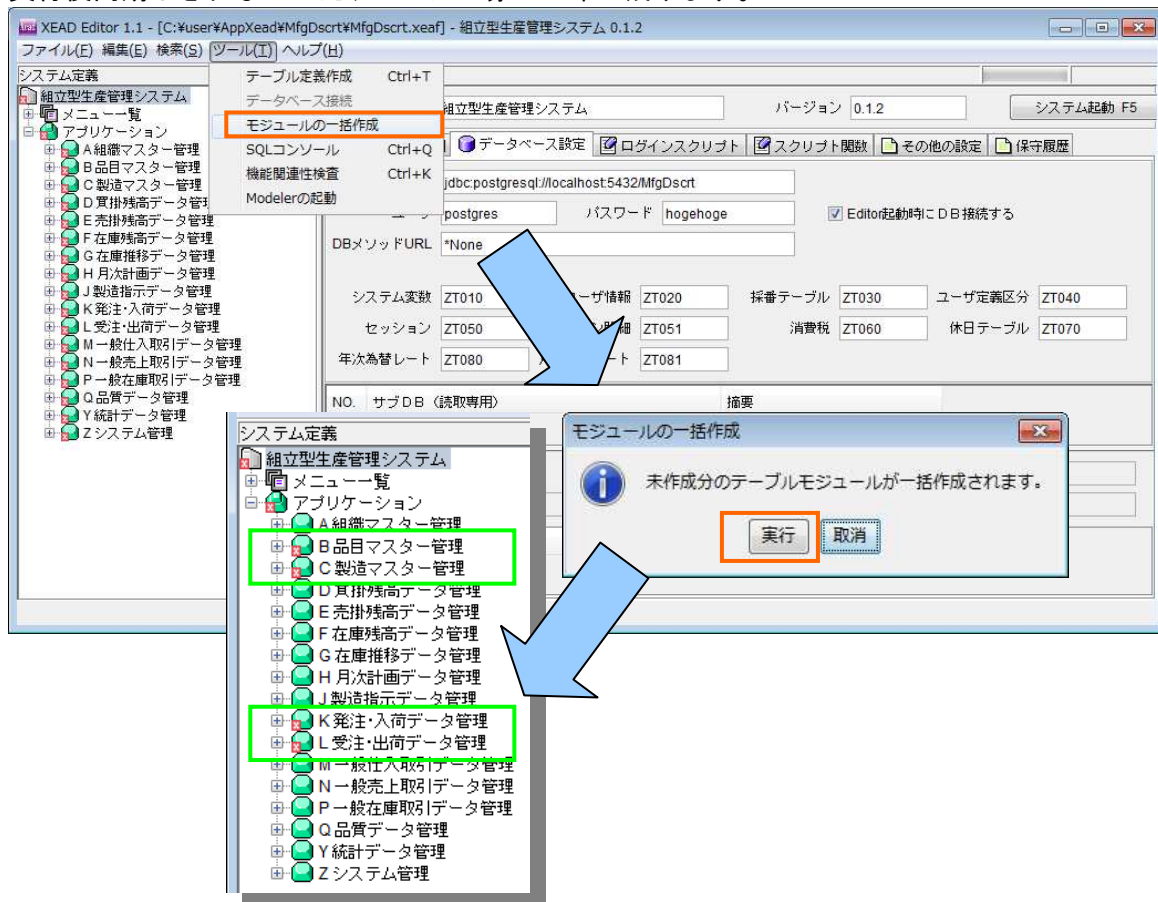


メイン DB の接続文字列と、ユーザ、パスワードを次を参考に修正してください。

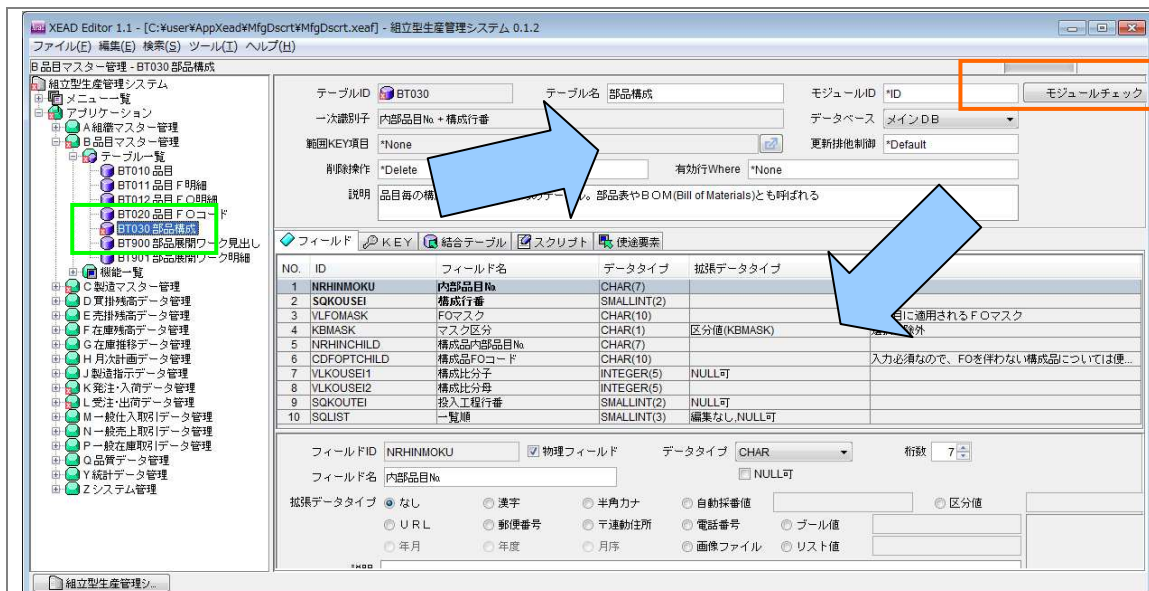
jdbc:derby://localhost/<CURRENT>%db XEAD XEAD
 jdbc:postgresql://localhost:5432/MfgDscrt postgres hoge hoge
 変更後、上書き保存し、あらためて MfgDscrt.xeaf を開いてください。
 テーブル設計情報と実際のデータベースが同期していないので赤い×が表示されています。



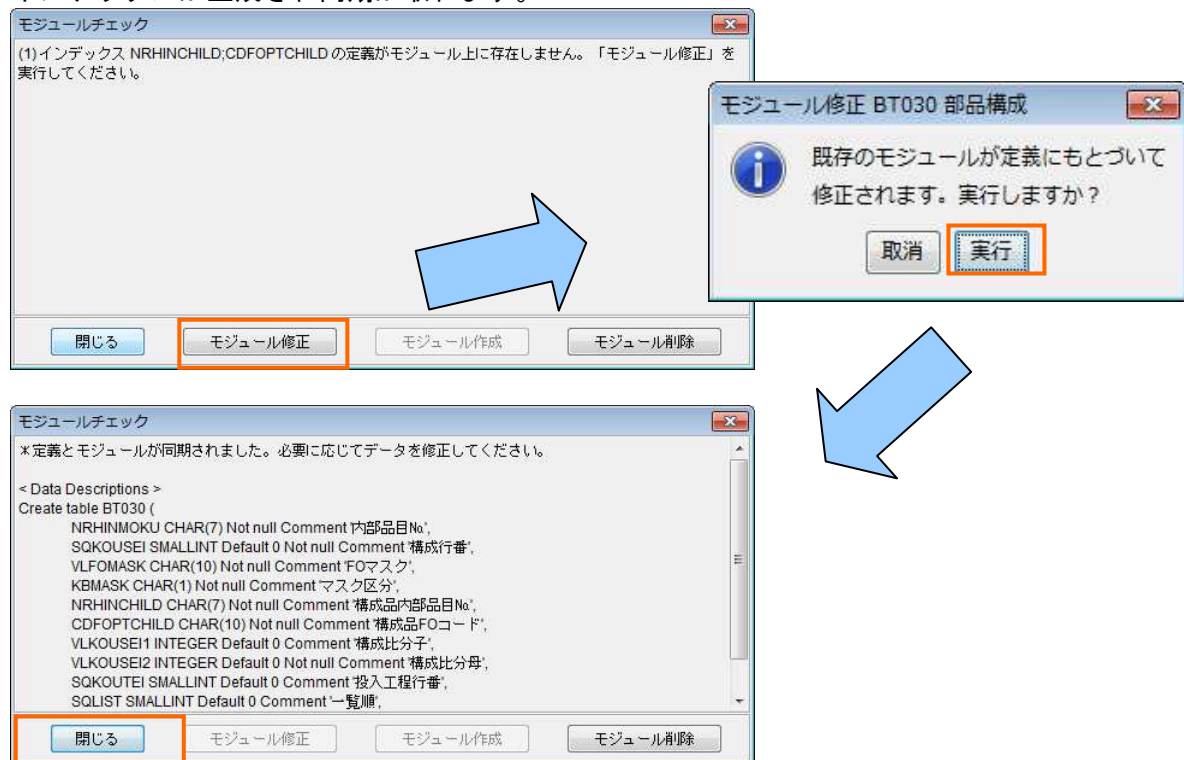
ツールメニューより、[モジュールの一括作成]を実行します。
 実行後同期しきれなかったテーブルに赤い×印が残ります。



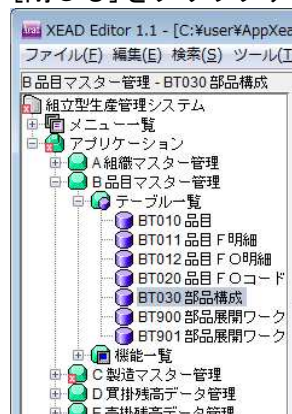
少し時間がかかります、右上の緑色のプログレスバーで進捗状況を確認できます。
 ツリーを展開し赤い×印のテーブルを選択し、[モジュールチェック]をクリックします。



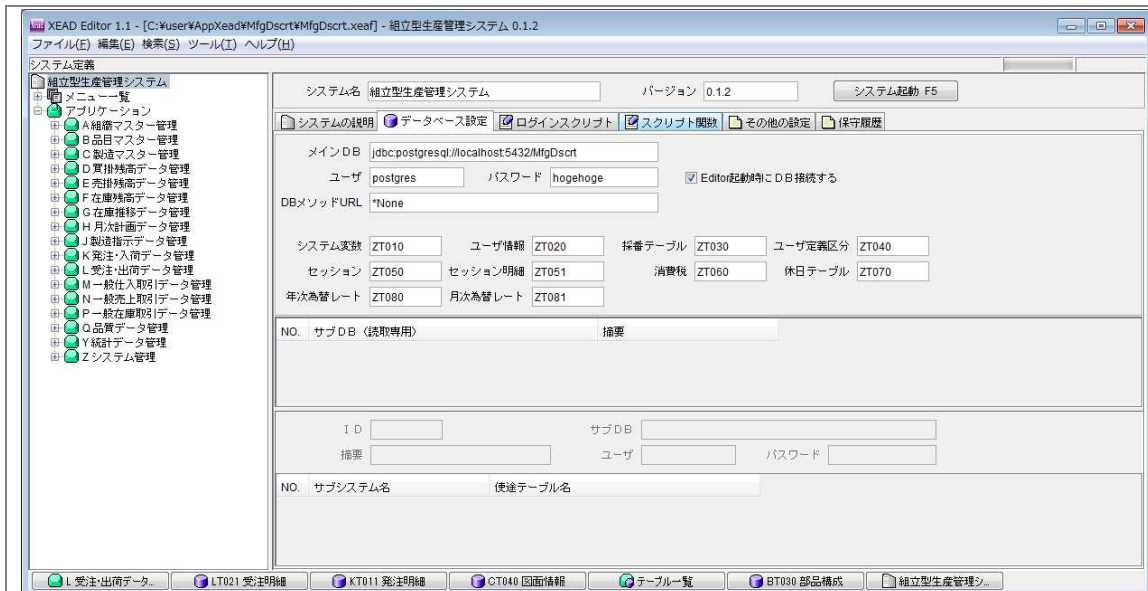
インデックスが生成され同期が取れます。



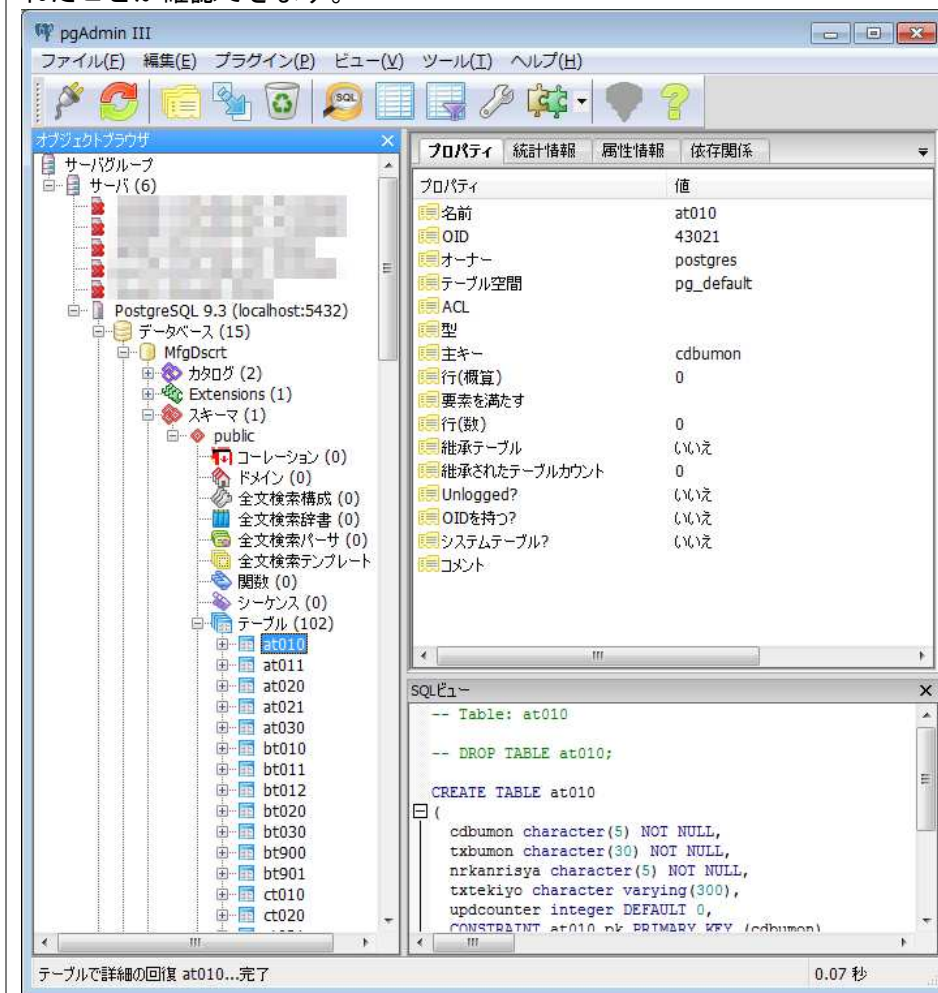
[閉じる]をクリックすると、BT030 部品構成から赤い×印が消えます。



すべてのテーブルの赤い×印が消えるよう、個別に[モジュールチェック]を行ってください。
すべてのテーブルで同期がとれた状態です。

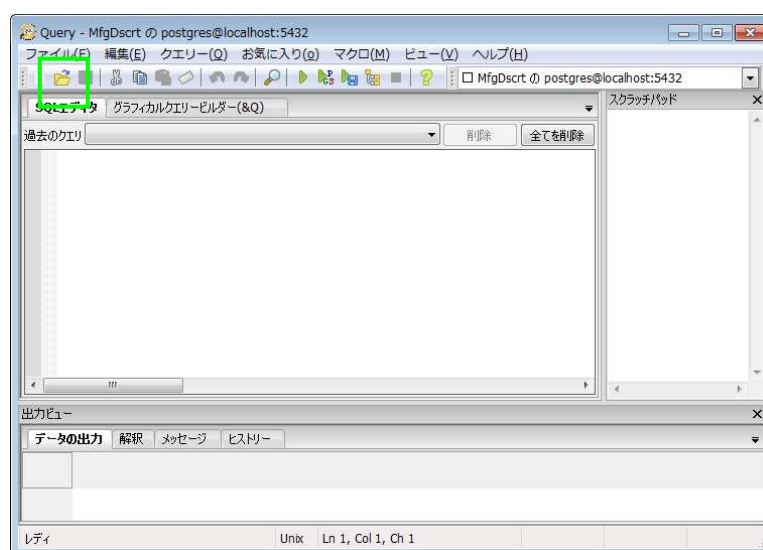
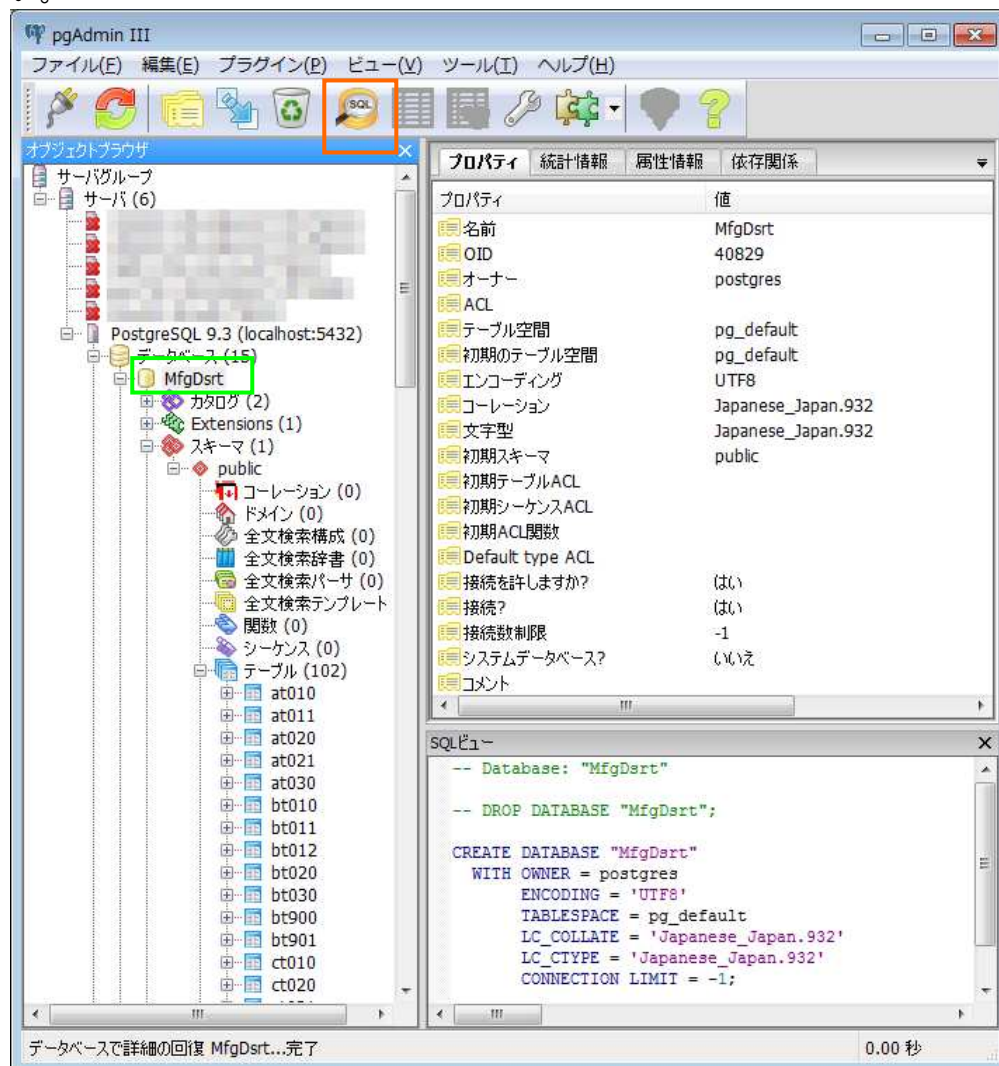


PgAdminIII を使用して、新しいデータベース MfgDscrt を確認すると、102 個のテーブルが作成されたことが確認できます。

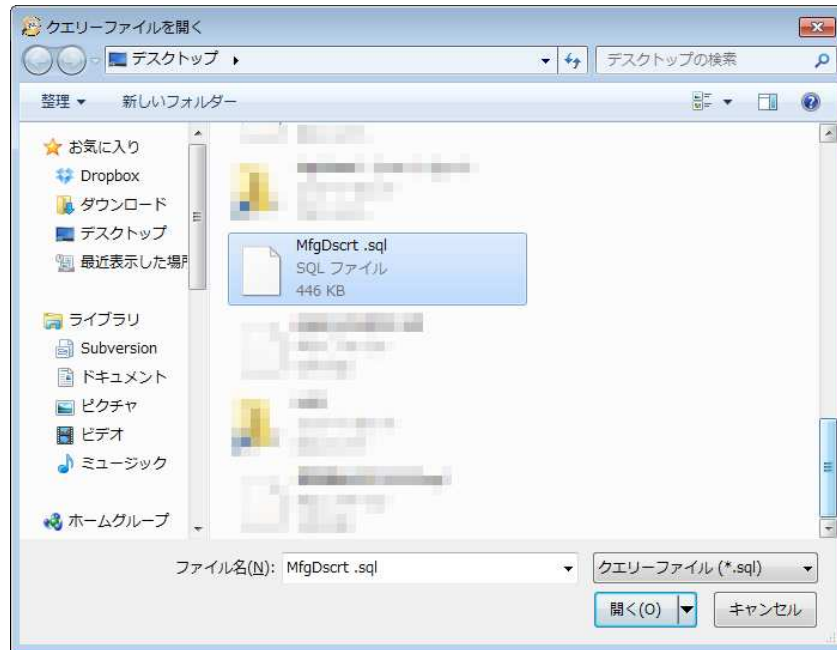


- (3) PostgreSQL、MfgDscrt データベースでエクスポートした MfgDscrt .sql を実行して初期レコードを作成します。

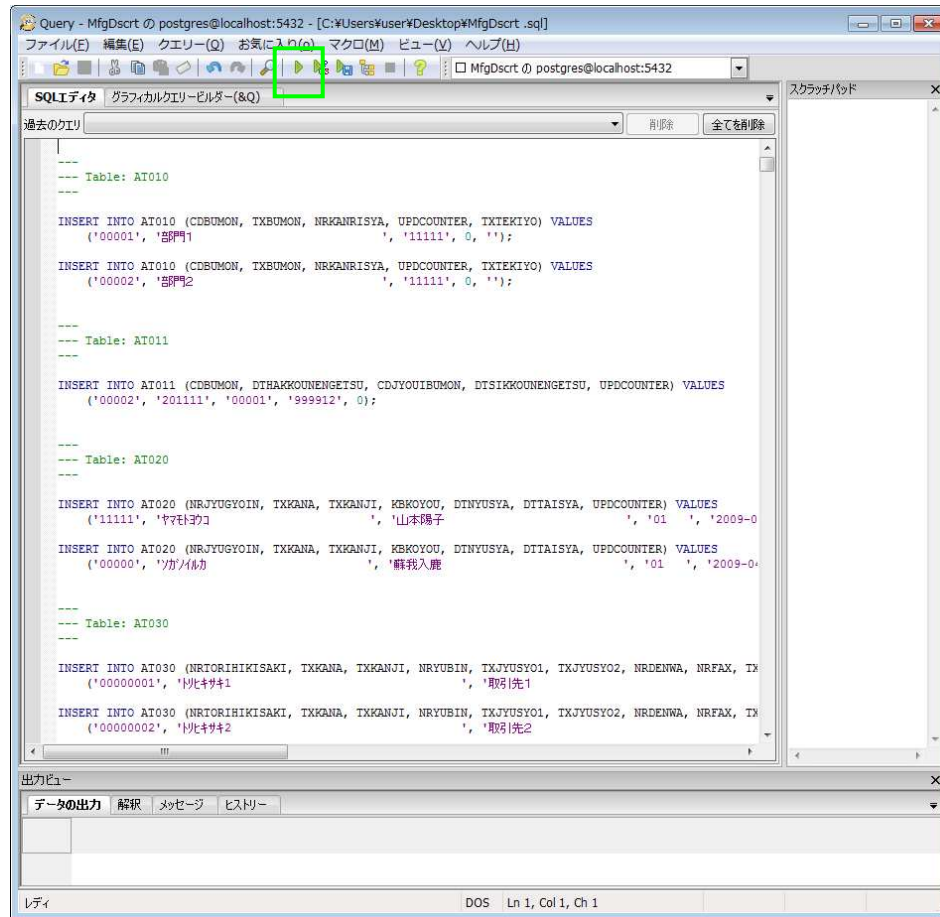
オブジェクトブラウザで MfgDscrt を選択して、ツールバーの [SQL] ボタンをクリックしてください。



クエリー実行ウィンドウが開いたら、ファイルメニューの[開く...]でデスクトップの「MfgDscrt」

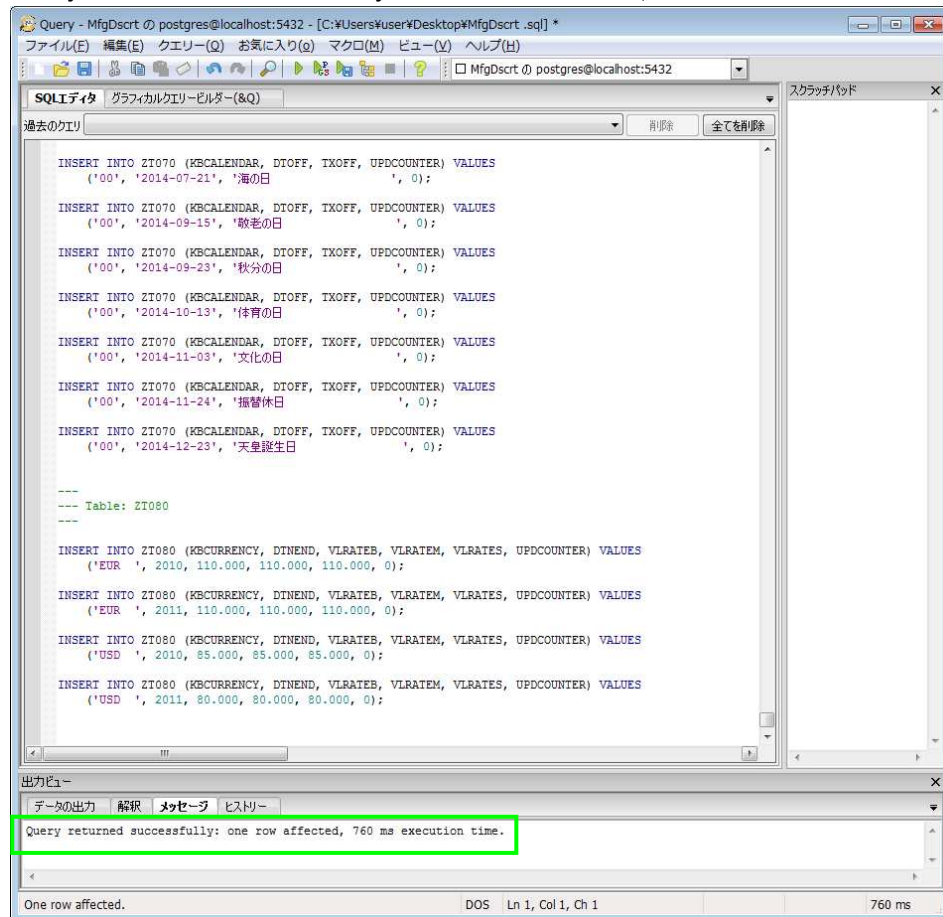


ファイルが読み込まれたことを確認し、[▶]実行します。



正常に終了したメッセージが表示されています。

Query returned successfully: one row affected, 374 ms execution time.

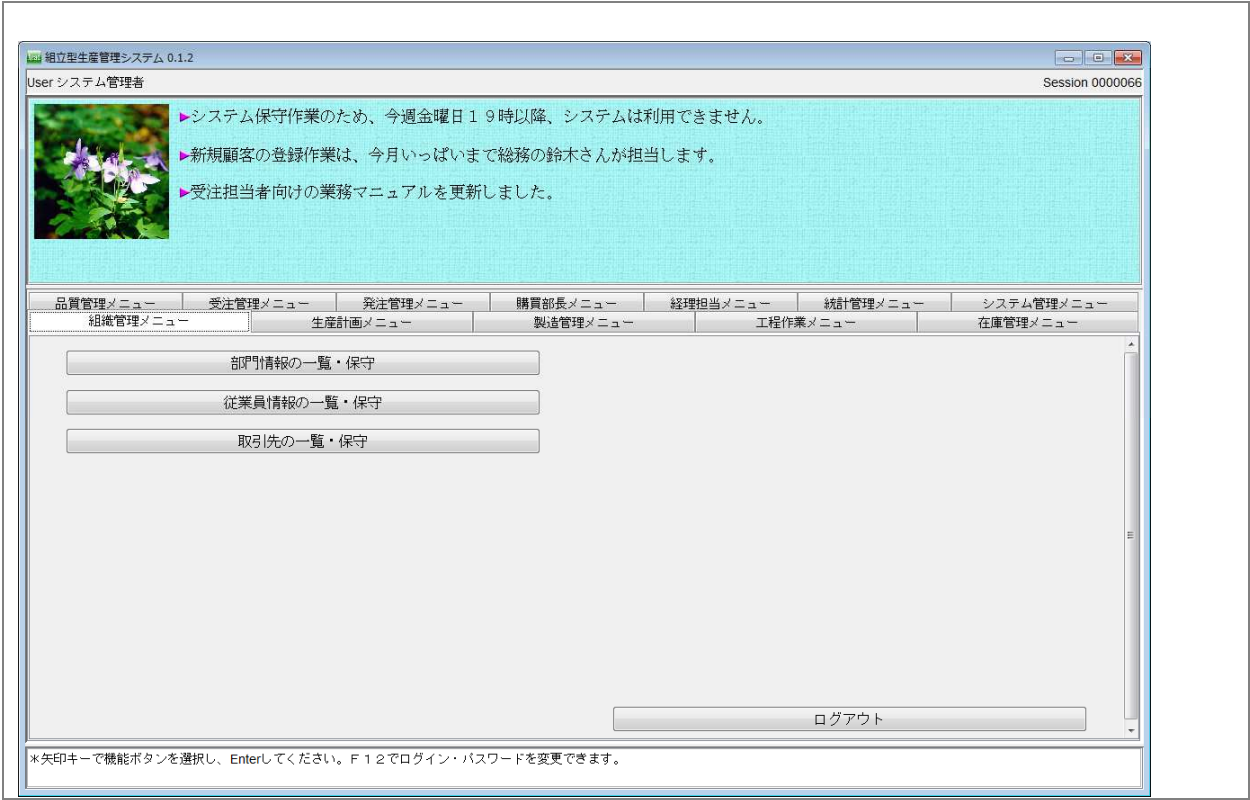


(4) XEAD Driver を起動する。

[システム起動 F5]をクリックし XEAD Driver を起動します。



(5) XEAD Driver 起動画面



第3章 付録

(1) 「CONCEPTWARE／販売管理」

「CONCEPTWARE／販売管理」についても、同様の方法でデータベースを移行し動作させることができます。

(2) 「Skeleton」

XEAD Driver の基本フレームワークとなる「Skeleton.xeaf」についても、同様の方法でデータベースを移行し動作させることができます。